



結び

～新たな千光寺公園の提案～

# 1・広島県尾道市 概要

広島県尾道市は、大半が山地で、島しょ部は概して急峻で平地に乏しく、平地は尾道水道・御調川沿い・島しょ部の海岸沿いに形成された地勢。海を望む階段や坂道、路地腰に見える尾道水道、点在する寺院など歴史と文化・伝統の魅力的な価値を持つまちづくりを推進している。

尾道市の観光名所である千光寺は標高144.2mの千光寺山に位置し、その山頂から中腹にかけて千光寺公園が広がる。園内には、「尾道市立美術館」や「文学の小道」、また春のシーズンはお花見のスポットとして多くの観光客で賑わっている。そんな尾道市はより千光寺を観光地として盛り上げる為様々な取り組みを行っている(表1)。2022年3月に展望台をリニューアルし、お城の形をした博物館「尾道城」も解体し2022年3月に視点場として新たな観光スポットとして変化しつつある。

- 都道府県： 広島県
- 面積： 285.11平方キロメートル
- 総人口： 130,274人
- 市の花： 桜
- 名所： 千光寺
- 特産品： イチジク、ラーメン、海産物、レモン



千光寺頂上展望台「PEAK」

<https://www.city.onomichihiroshima.jp>



尾道城跡地 視点場

<https://www.city.onomichihiroshima.jp/sosaki/33/47336.html>

施設名称	基本的な方向性	短期計画								中期計画 R09-R13
		R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08		
尾道市立中央公民館	改修・更新	改修・更新	改修・更新	→	→	→	→	→	→	
千光寺公園(山頂展望台)	改修・更新	改修・更新	→	→	→	→	→	→	→	
千光寺公園(文学の小道)	改修・更新	改修・更新	→	→	→	→	→	→	→	改修・更新
千光寺公園(お花見のスポット)	改修・更新	改修・更新	→	→	→	→	→	→	→	改修・更新
千光寺公園(展望台)	改修・更新	改修・更新	→	→	→	→	→	→	→	改修・更新
千光寺公園(仮設校舎)	改修・更新	改修・更新	→	→	→	→	→	→	→	改修・更新
千光寺公園(市営プール)	改修・更新	改修・更新	→	→	→	→	→	→	→	改修・更新
尾道市立中央公民館	用途転用	用途転用	→	→	→	→	→	→	→	改修・更新

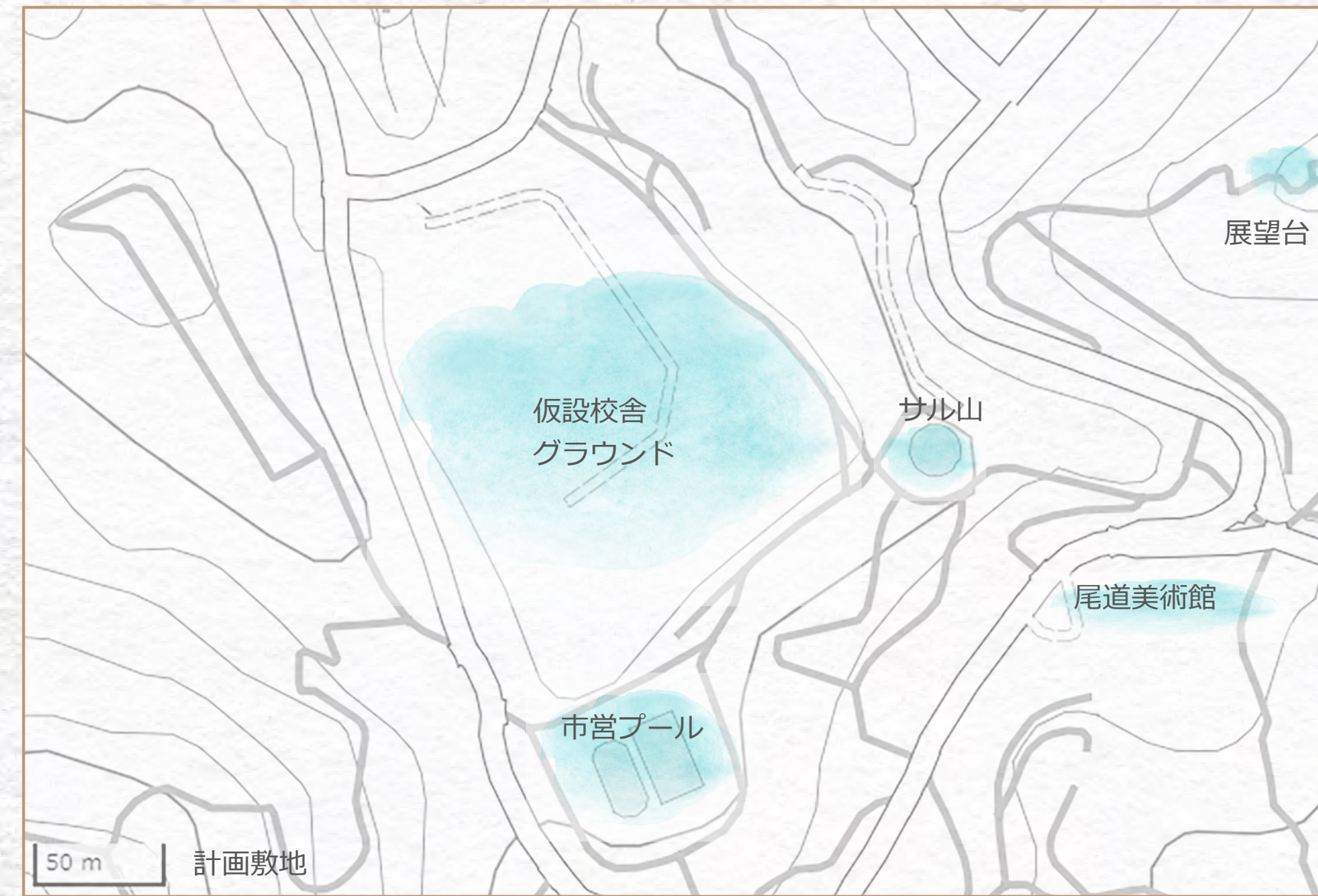
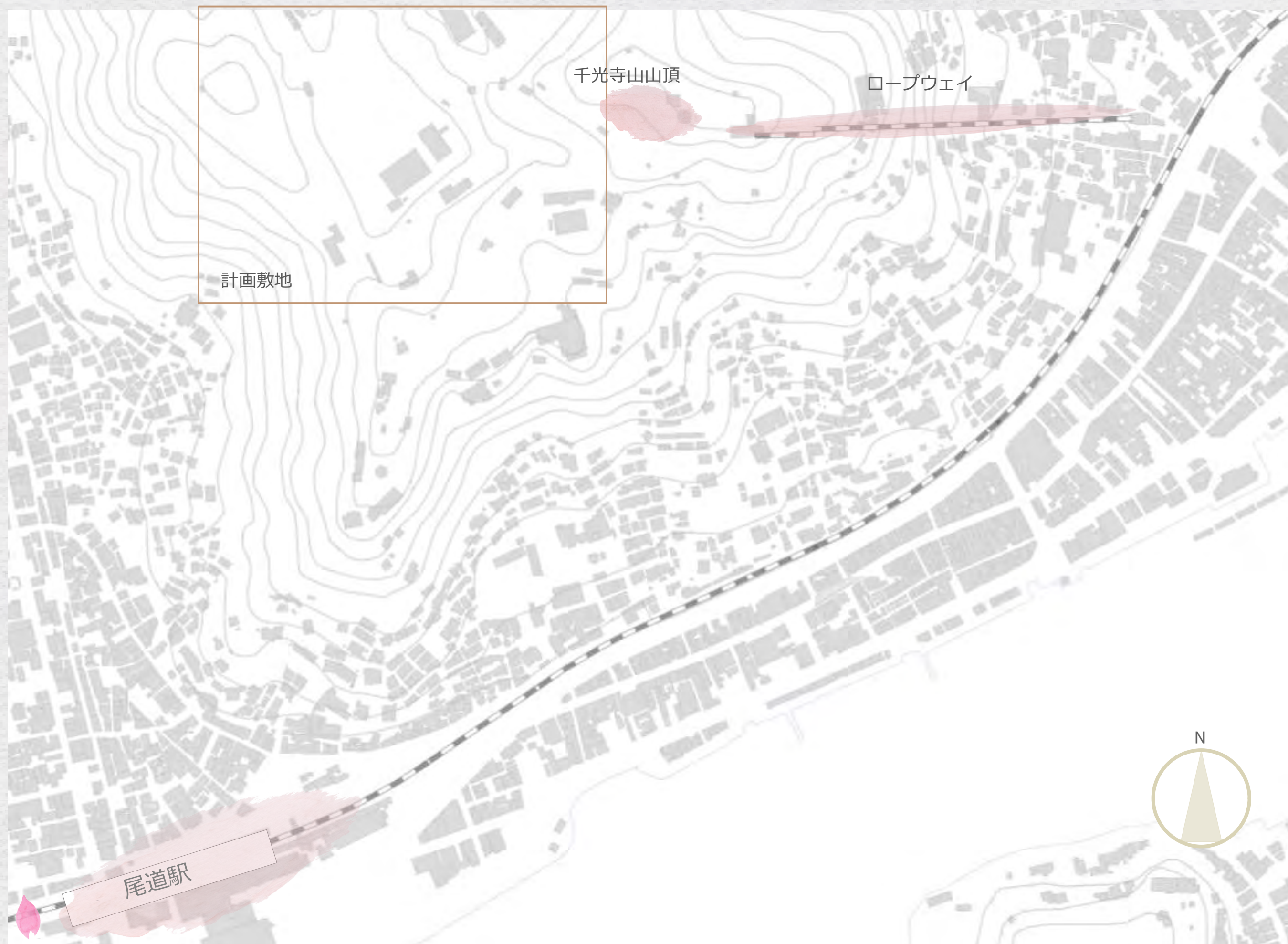
表1 尾道市公共施設総合管理計画 個別施設計画 令和3年3月

# 2・千光寺公園 課題

千光寺の西側進むと山と山に囲まれ自然も多くある開けた位置に、サル山や市営プール等使われていない施設や老朽化が目立った状態になっていたり、駐車場として使われていたグラウンドには現在、仮設校舎があり駐車場不足にもなっている。園内には広場も多くあるが、レベル差のある狭いスペースで構成され、公園として遊ぶ所も少なく利用がしにくいといった問題が挙げられる。また、高齢者や身体的課題をもった方にとって千光寺に滞在することが困難にならないようにバリアフリー化へと進める必要があると考える。

# 3・計画目的

前項の問題を改善し、尾道の千光寺公園の観光範囲を広げるきっかけを作り、敷地特性を活かしながら尾道に住む地元の方から観光などで訪れた方にも千光寺公園に滞在することをより楽しめる空間にする。公園内の西側の敷地は千光寺とかけ離れた空間になっている為、関連性を持たし、千光寺と“結び”人と人を結び、歴史や文化を伝えるなど多方面への繋がりを生む流れをつくることを目的とする。



↑サル山

サル山は1970年、当時の「千光寺山グリーンランド」という遊園地の一角にオープン。2021年3月に最後の1匹のサルが亡くなり、サル山は開設51年で役割を終える。



市営プール→

25mプールと子どもプール、更衣室など1965年に建てられたため老朽化が進んでいる。現在、一般利用を取りやめ、仮校舎の小学生に利用を限定している。尾道市は観光目的としての施設を見直すことで用途転用を検討する予定。

←グラウンド

千光寺公園グラウンドは、市民や観光で訪れた方の憩いの場として、無料臨時駐車場として使われていた。2021年7月から小学校の仮校舎として使われている。2024年度末には仮校舎の契約を終える方針を示している。



### 3・計画敷地

計画敷地は、千光寺公園西側、猿山、市営プール、学校及びグラウンドとする。

敷地の特徴としては山と山に囲まれた盆地状の敷地。周辺の見晴らしは悪く使われにくい敷地であるが、木々が多く自然を感じられる場所である。



千光寺公園ガイドマップ - 尾道市 <https://www.city.onomichi.hiroshima.jp>



Google マップ <https://www.google.co.jp>

### 4・計画プログラム

- ①案内所
- ②資料館
- ③飲食店
- ④足湯
- ⑤駐車場
- ⑥広場（公園）
- ⑦広場

#### 計画プログラムについて

- ①②) 山の中腹にあるため、頂上から下り、下から登って来る人に向け、尾道の歴史や千光寺の伝説を伝え、案内所としての機能をもった資料館を計画する。
- ③) 千光寺公園内でゆっくりくつろぐことの出来る、飲食店及びコミュニティスペースを計画する。
- ④) 足の疲れを癒やし、休憩しながら自然を感じられる足湯と子供連れの利用者のための公園を計画する。



### 5・ダイアグラム

#### 結び×建築

広島県尾道市にある千光寺は縁結びのパワースポットとして有名な場所といわれている。“結び”という言葉は紐状の物をくくる・つなげる・まとめる・固めるなど様々な意味があり人との関係を結びといったご縁、過去と現在を結ぶ歴史など“結び”に関する文化も多くある。そこで、使われにくい西側の敷地を千光寺に結びつけ、歴史や文化を伝える空間。体験や広場などのコミュニティを通して、人々を結び、そのような空間が必要だと考える。

そこで“結び”という言葉から帯状のプレートの結び方のシステムで建物を構成する。



1-山の上から来る人、山の下から来る人が一直線に進むことができ、スロープによってすべての人が利用できるバリアフリー化へ対応する。

2-同じレベルの敷地を繋ぐ

3-各階の建物同士、地面、スロープで繋ぐ。

### 6・設計手法

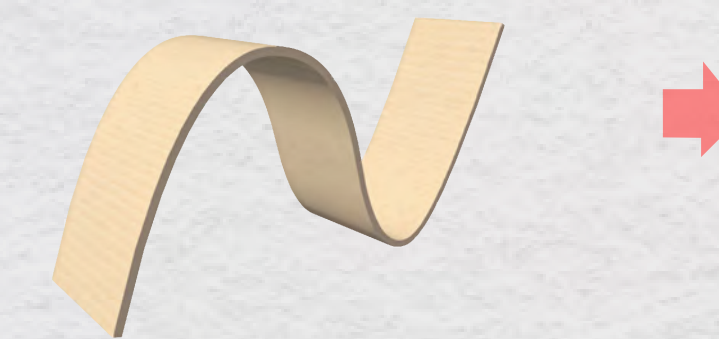
1. 異なる地盤レベルを有機的に連結するために、帯状のプレートを結びの形として取り入れる。

2. タテ使い・ヨコ使いの2つのシステムを用いる。曲線状の連続、分割によって様々な形を生み出す。同じシステムでつくることにより、全体が融合する。

3. 茶×白 色で構成  
大きい要素の建物を茶色でまとめ、小さい要素の建物などは白色でまとめる。

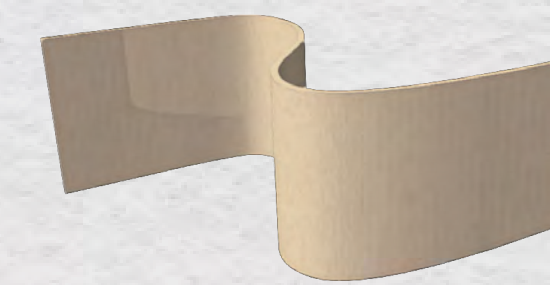
ヨコ使いプレート

地面に対して水平なプレート



タテ使いプレート

地面に対して垂直なプレート



例)

例)

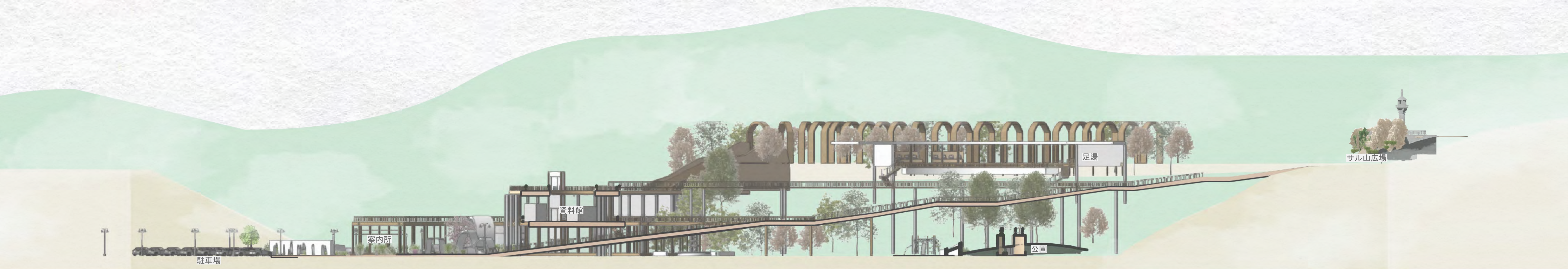
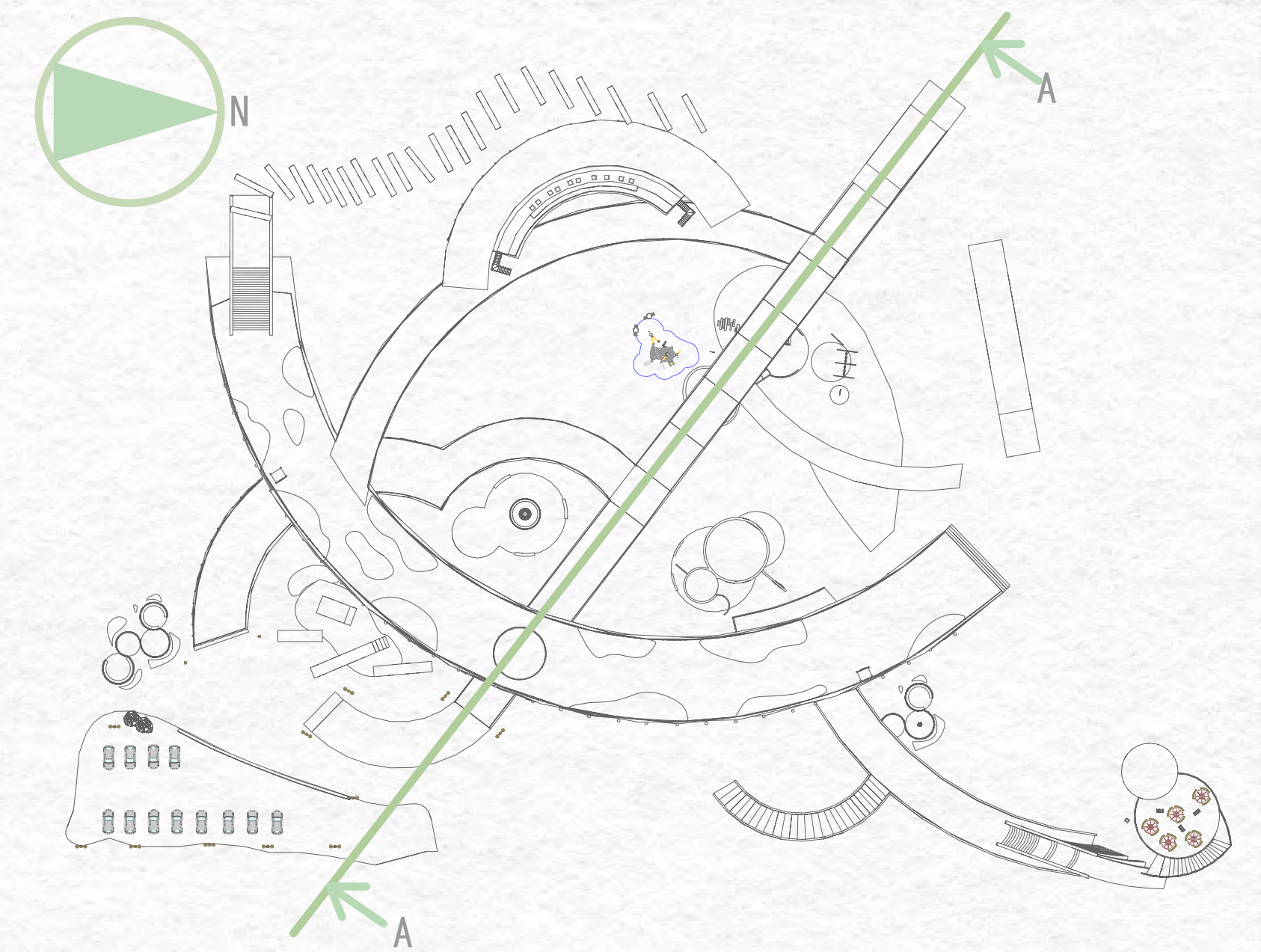




西立面 (S=1/300)



北立面 (S=1/300)

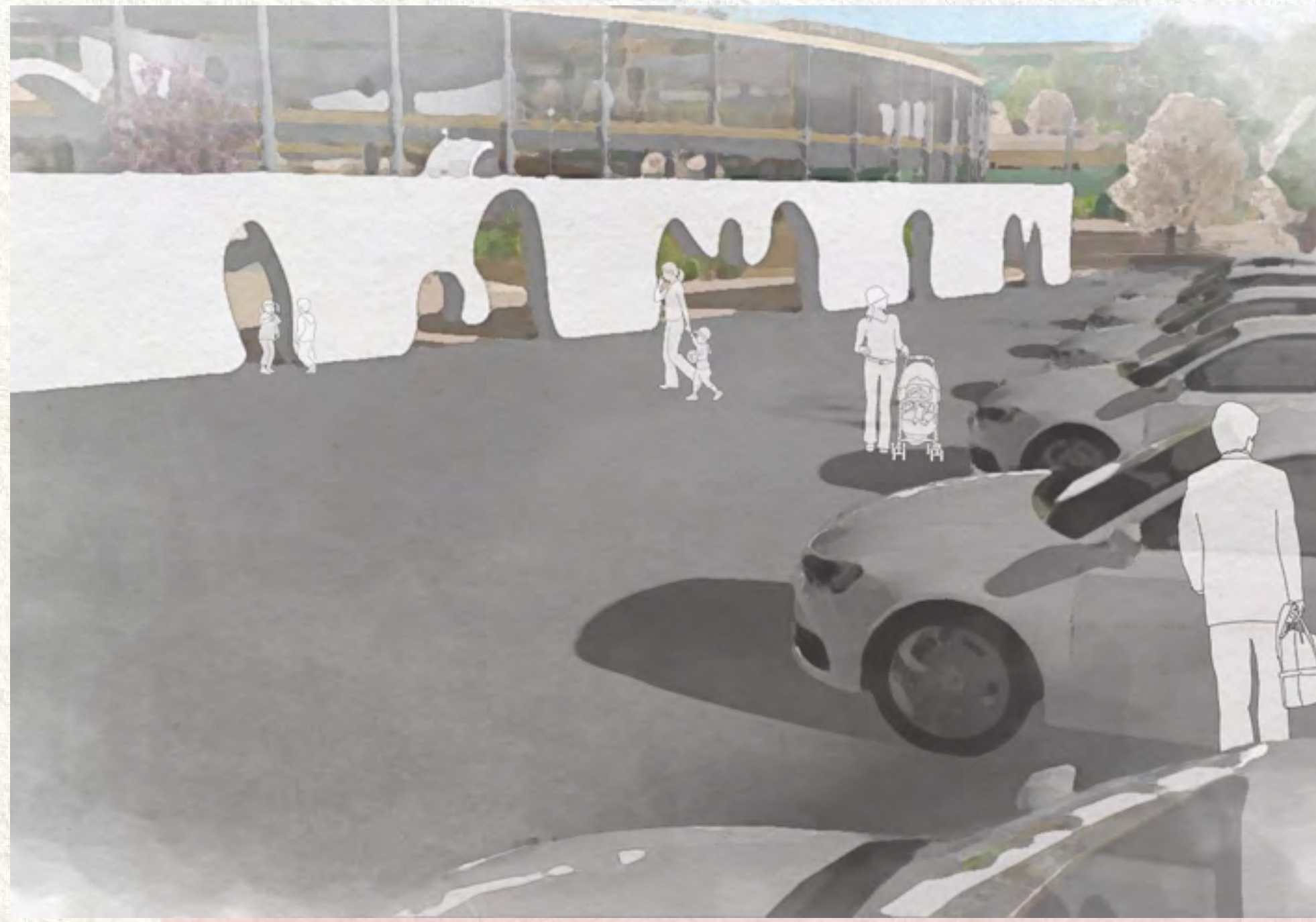


A-A断面 (S=1/300)

## 計画① 駐車場

千光寺公園にある駐車場は（常設）普通車70台、（臨時）222台、バス20台が停められる。グラウンドには以前まで無料駐車場として多く利用されていた。現在は仮校舎が建っているため、利用出来なくなっている。また新たに無料で使える駐車場を計画する。

駐車場パース



駐車場パース



駐車場には、タテ使いのプレートを設置する。様々な大きさの形でプレートをくり抜き大人から子どもに合わせた入り口となる。駐車場と公園との区切りをつける役目として用いる。

案内所 外観パース



案内所 内観パース



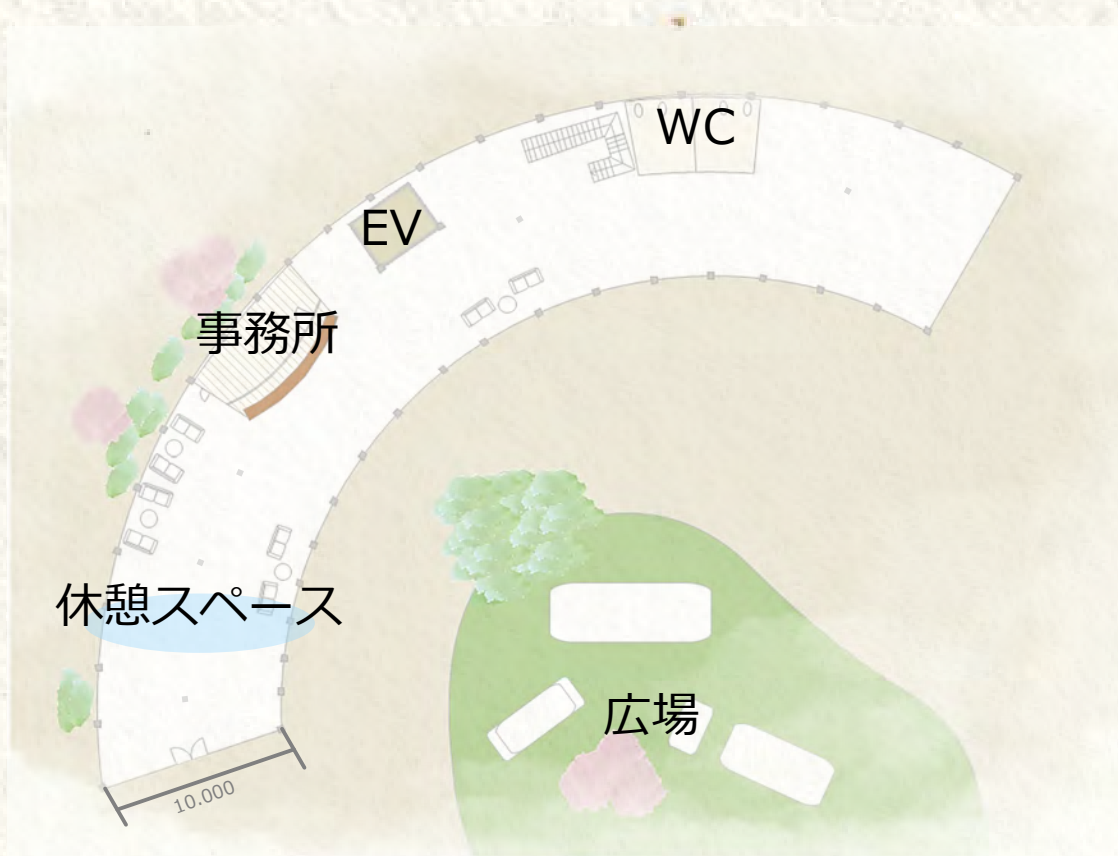
## 計画② 案内所

グラウンド左側、メインとなる建物の1階に案内所を配置する。駐車場の近くに位置させ、千光寺公園敷地内を案内、また尾道市の観光案内などを目的として案内所を設ける。

### ● 建築概要

案内所の内部空間には、案内所の事務所、ゆっくり座りながら次の目的地を考えられる休憩スペースを設けた。事務所は建物の形にあわせた曲線のカウンターを設け、木材のナチュラルな室内空間によって優しい雰囲気となる。そこに居るだけで、快適さを感じられる案内所スペースとする。

案内所 平面図



案内所 内観パース



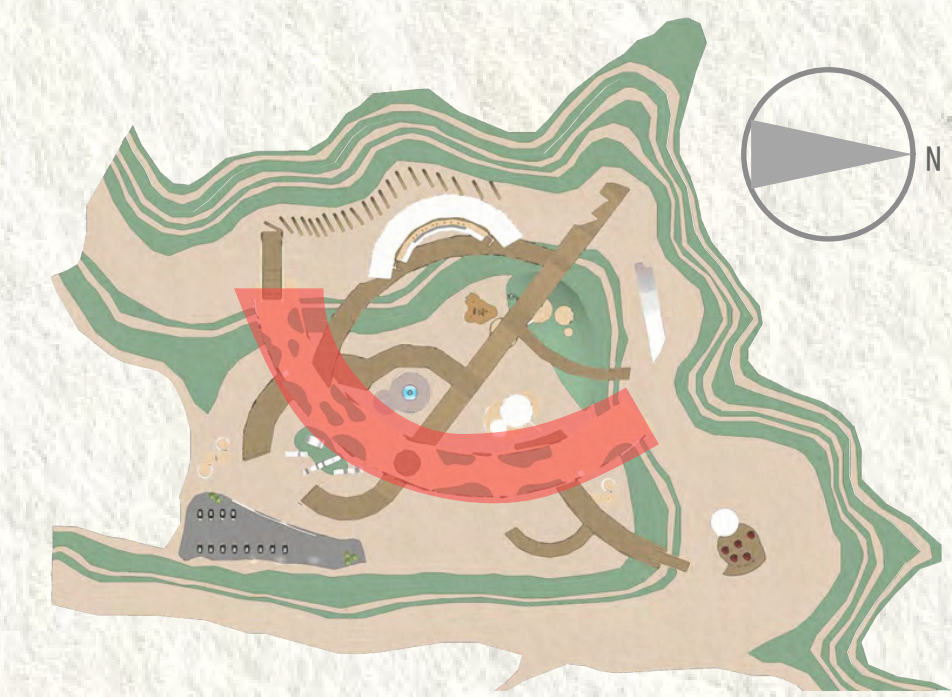
←案内所内から広場を眺められる。

## 計画③ 資料館

資料館は、メインとなる建物の2階部分に設ける。千光寺公園には「玉の岩」という伝説や歴史、様々なご利益などがある。あまり知らずに来られる観光客の方に知ってもらいたい、知った上で千光寺を見てほしいという思いから尾道千光寺の資料館を計画した。他にも建物内に、体験スペースを設ける。体験スペースは、尾道市の魅力を伝えること、人と人が交流できる場としての役割を担う。

### ● 建築概要

開放された窓ガラスにより、外部と一体化になるような空間にする。ガラスに映る景色が見える世界を広げ、自然の一部に建築を存在させ建築と自然の境界線を無くすることができる。外と内を“結び”周辺環境に溶け込む事が出来るようにする。



## 体験エリアについて

メインの建物内には、資料館以外にも体験エリアを設けた。尾道の魅力を発信し、人と人が交流できる場としての役割を担う。尾道市には、招き猫の絵付け体験や尾道帆布グッズ作りなど様々ある。このようなワークショップに加え、季節のイベント行事などで利用する。

- 主な尾道市のイベント
- ・ 尾道ベッチャー祭り
- ・ 尾道灯り祭り
- ・ 尾道みなと祭り 等



資料館 外観パース



資料館 平面図



資料館 中庭パース



体験エリアパース

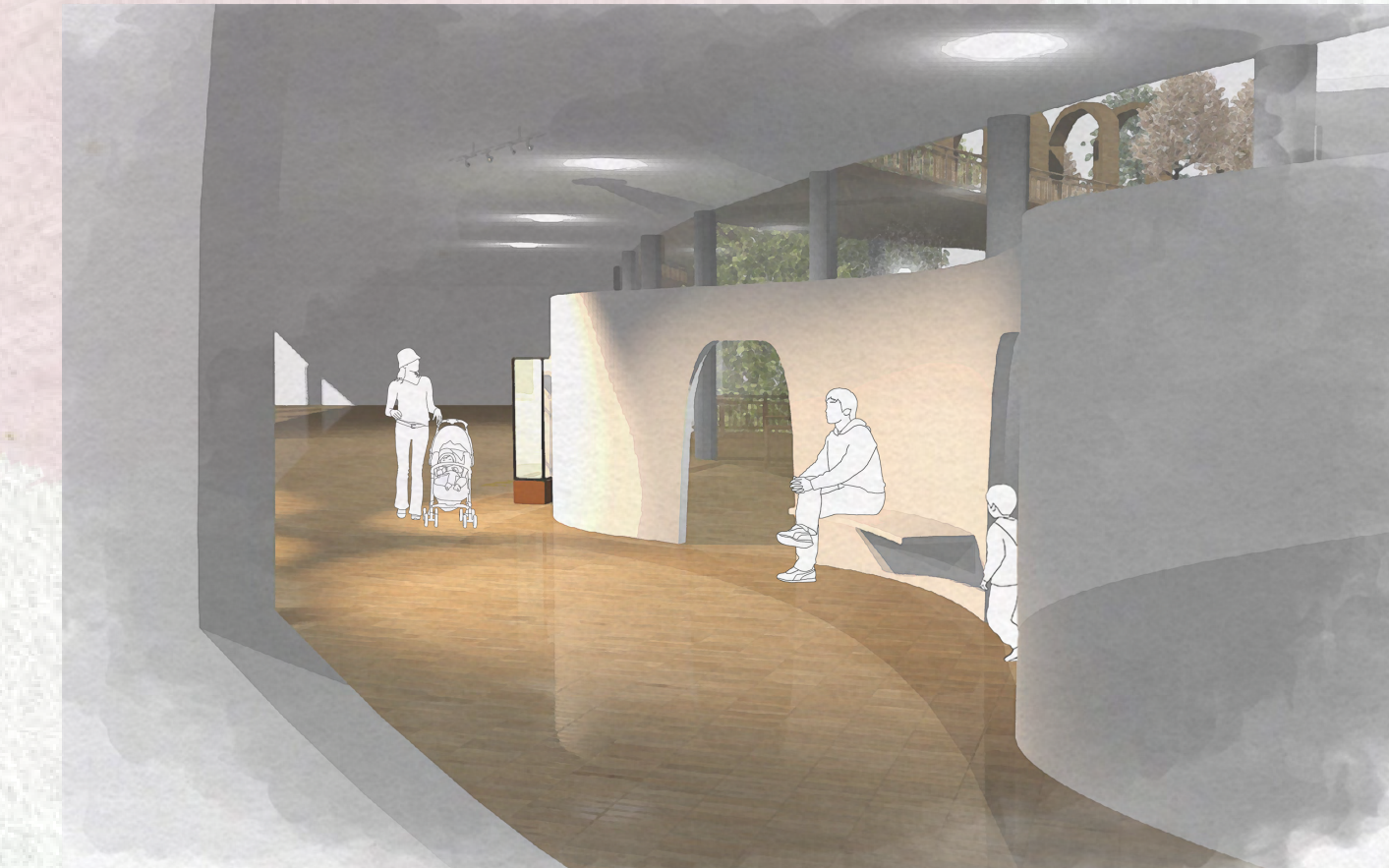


## 展示空間について

内部空間は資料を展示する壁をタテ使いのプレートを用いて配置させる。プレートは、駐車場のように様々な形でくり抜き、行き来することが出来、窓の景色も見えるようにする。



資料館 内観パース



資料館 内観パース



↑空間に「抜け」を存在させた。外部空間と内部空間を繋ぎ、光と風が通る「抜け」によって空間の広がりを感じることが出来る。

↑波打った形のタテ使いのプレートにヨコ使いのプレートを合わせ、椅子としても利用が出来る。

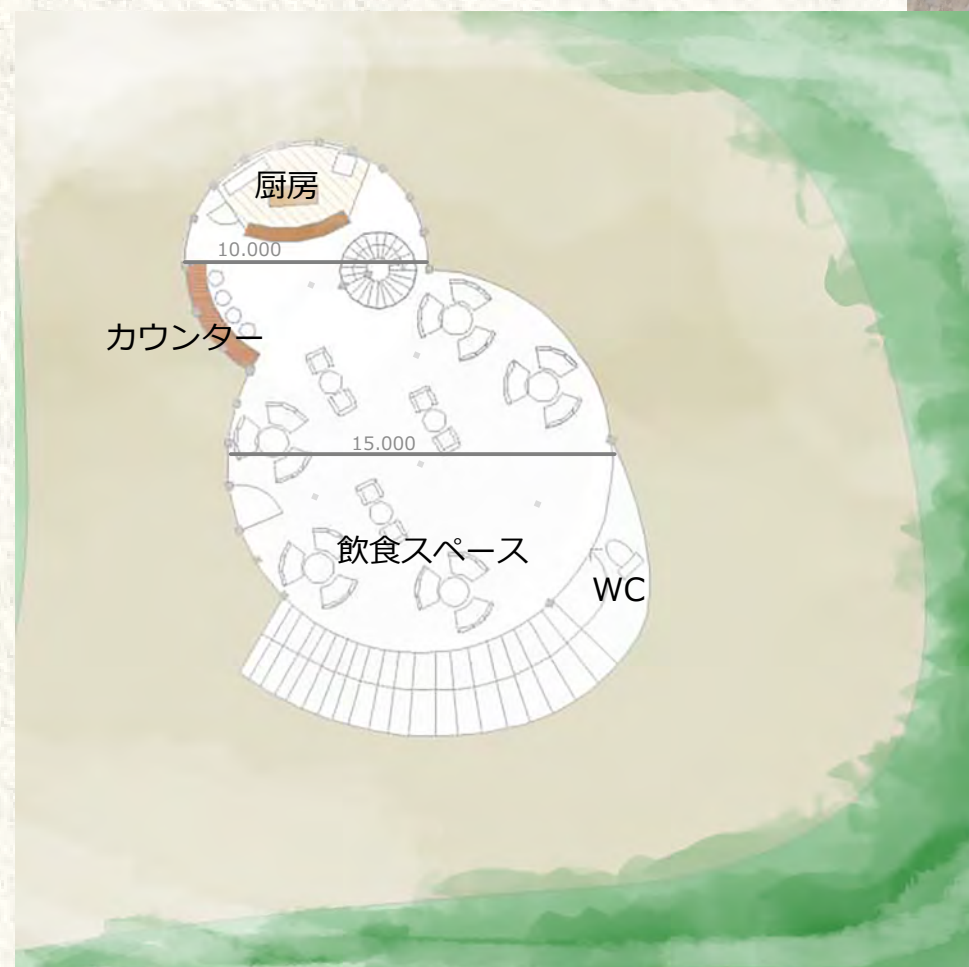
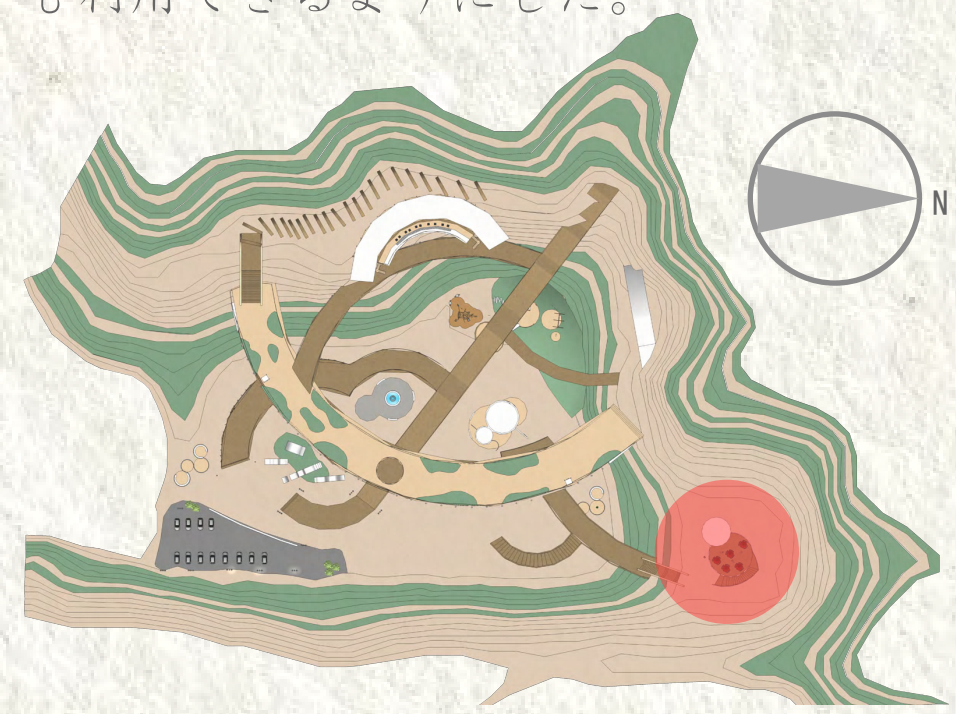
↑いくつか空間が生まれ個室として視線を気にすることなく休憩出来る空間となる。

## 計画④ 飲食店

市営プールの敷地には、様々な人が利用できる飲食店を設けた。旧展望台の中にレストランがあったが、展望台リニューアルに伴い現在はレストランは閉店。千光寺公園敷地内には、現在1店舗のみが営業している。そこで新たに西側に敷地に飲食店を設けることで、西側がより栄えるのではないかと考えた。

### ●建築概要

市営プールの敷地は山の斜面に囲まれており、建物にはガラスを用いることで自然を感じながらゆっくり出来るような空間にする。また、高低差のある2つの円柱の建物で、1つは屋上へあがるようになっている。屋上に出るとパラソル付きのテーブルを囲いながら利用し、自然をより感じられる飲食スペースを設け、中からでも外からも利用できるようにした。



飲食店平面図



飲食店外観パース



飲食店屋上



1階厨房



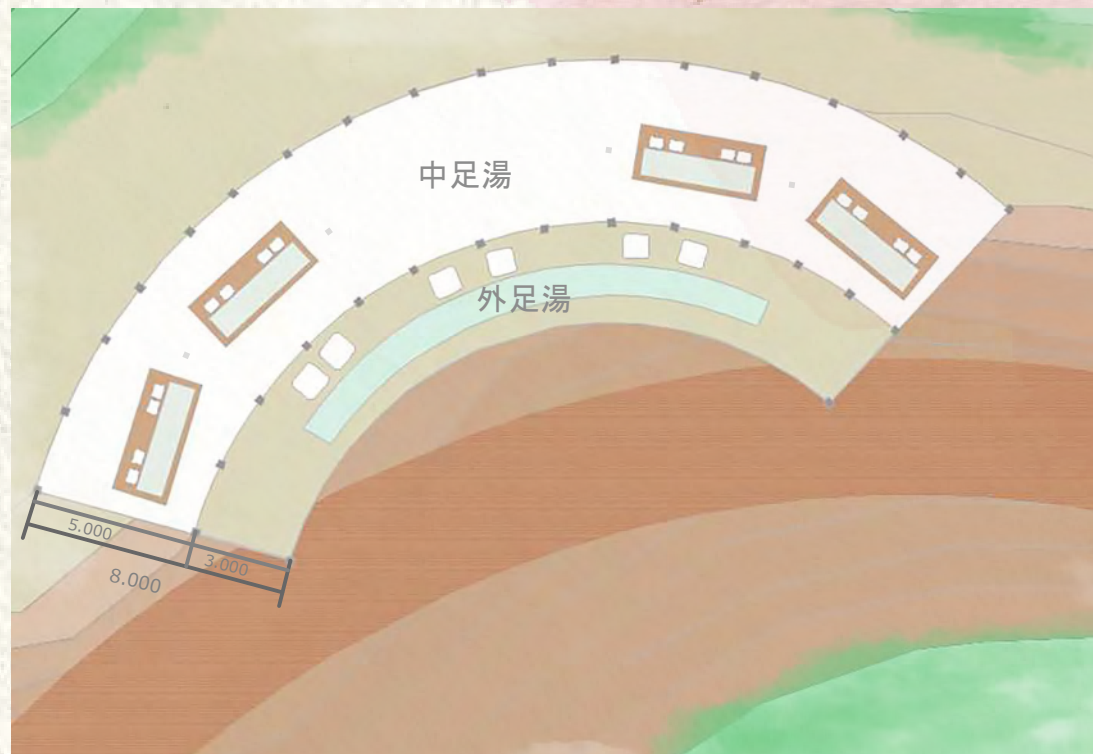
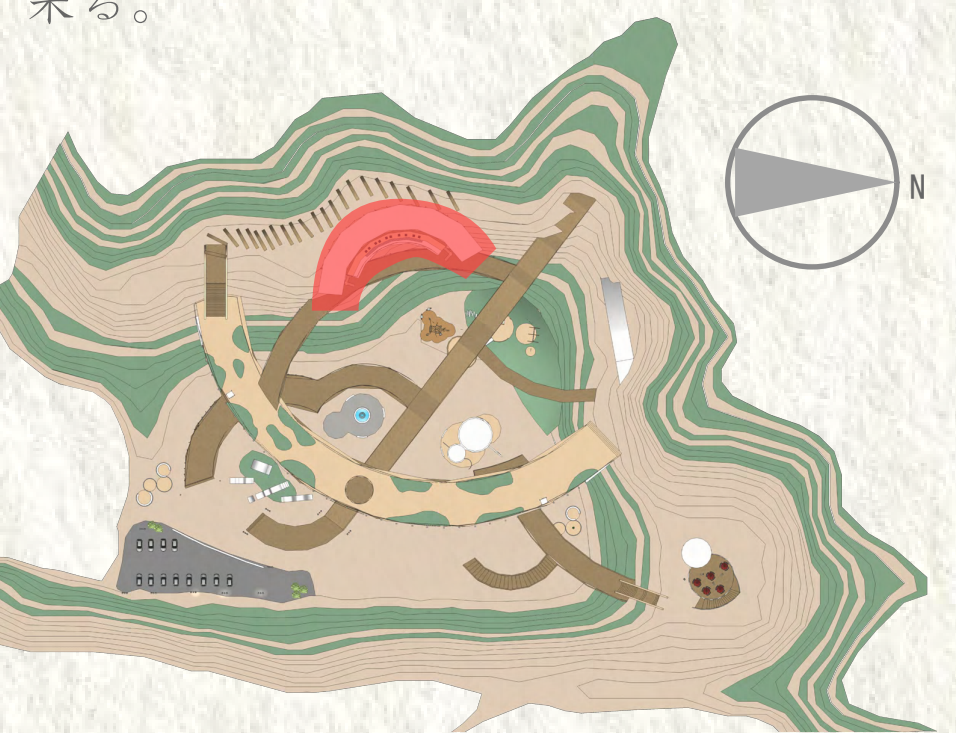
1階飲食店内観パース

外足湯スペース

## 計画⑤ 足湯

足湯は、全身の血流が良くなることによって体中に酸素がいきわたりやすくなり、疲労回復に繋がる。千光寺を登る際に、標高144.2mの千光寺山、階段の数約350段を登るため足にとっても負担がかかる。そこで、体力を回復できるような足湯を設けた。

足湯の場所は山の斜面に位置し、西側の敷地を見渡すことが出来、また、室内と屋外と分けることで季節に合わせて、雨の日でも利用が出来る。



足湯平面図



足湯内観パース

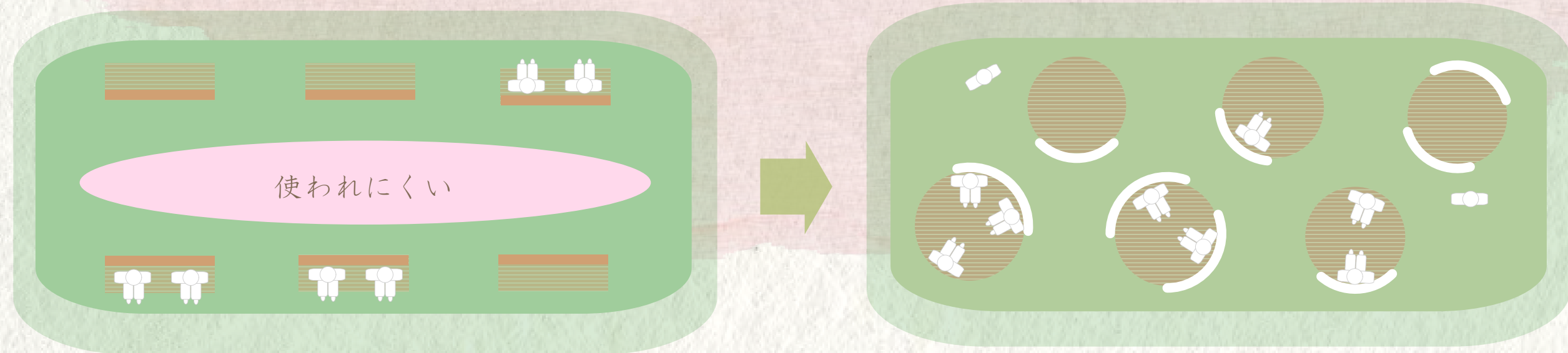


座るスペースは1列に配置し、均等に外の景色を見ることが出来る。また知らない人同士が向かい合わないため、緊張せずリラックスできる空間となる。

## 計画⑥ 広場

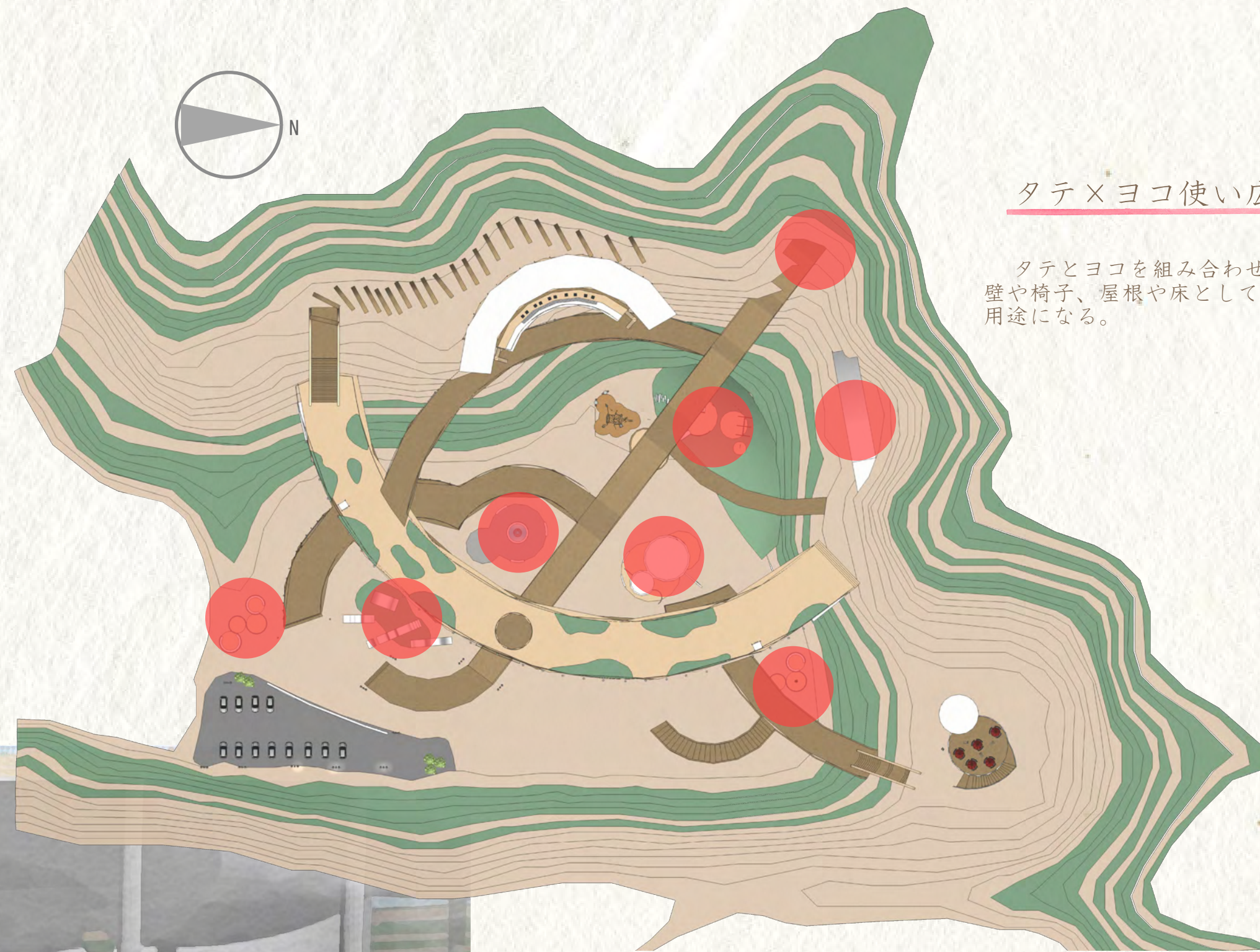
日本人は、対人の視線を回避する傾向のある社会的性格で大きい面積の広場があっても、人は端により中央部分はあまり利用されない。

様々な用途に応じた広場をつくり、分割することで視線を気にせず利用しやすくなる。小さい広場をいくつかに分散し、各地盤にレベルの異なる各広場を利用することができ、様々な空間体験ができる計画にする。



↑タテ使い広場

高さの違う連続するプレートの壁に囲まれた空間。個別の空間として利用できる。



タテ×ヨコ使い広場→

タテとヨコを組み合わせると、壁や椅子、屋根や床として多様な用途になる。



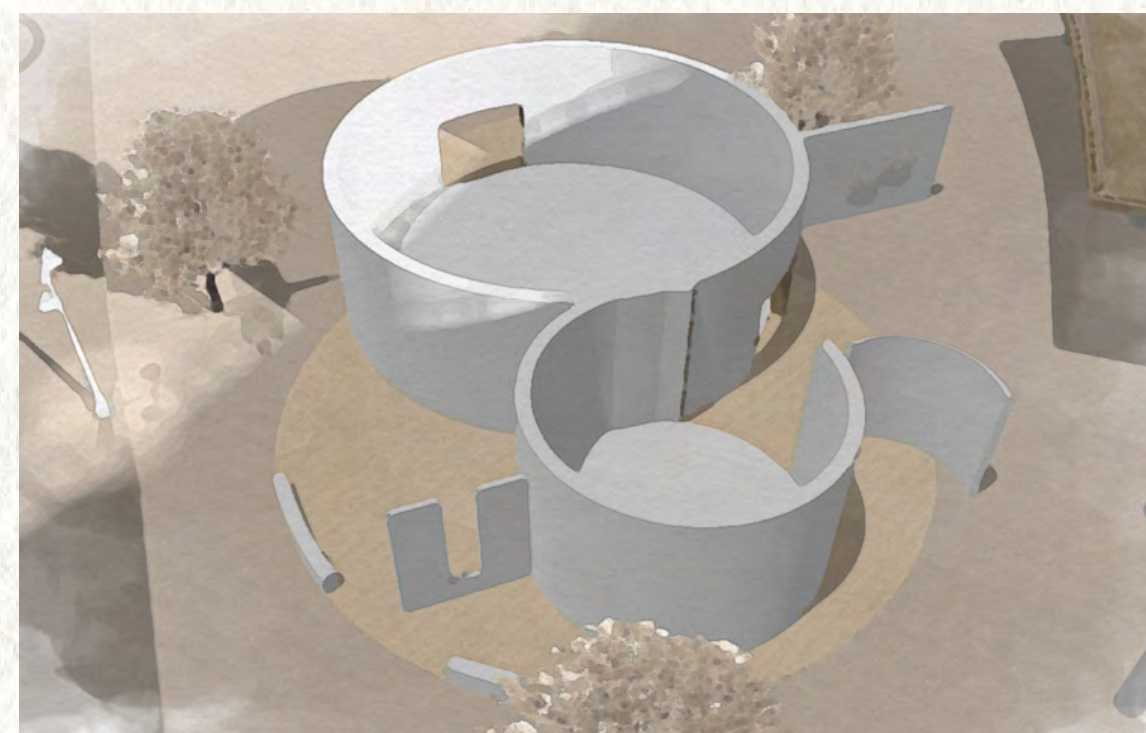
ヨコ使い広場→

さまざまな形のヨコ使いの広場。登る、降りる、くぐる、寝転ぶ事が出来る空間。



↓タテ使いイベント広場

タテ使いの壁を利用して、展示やイベントなどの空間として利用できる。



↑公園広場

滑り台やブランコなど様々な遊具のある広場。



←サル山広場

現在使われていないサル山は1970年、当時の「千光寺山グリーンランド」という遊園地の一角にオープン。2021年3月に最後の1匹のサルが亡くなり、サル山は開設51年で役割を終えている。そんなサル山の塔を残し、千光寺の魅力の一つとして歴史をつなげる役割を持たせた新たな広場として計画する。

サル山の壁を開放し、タテ使いの壁にそった、ヨコ使いのプレートを組み合わせ、椅子として利用出来る。また、サル山にある岩も残り、登ることの出来る遊具として利用する。







結び

～新たな千光寺公園の提案～